

試験時間 90分

注意事項

- 1 解答用紙、草稿用紙ともに受験番号と氏名の記入を忘れないこと。
- 2 問題用紙、草稿用紙は解答用紙とともに机上において退出すること。持ち帰ってはいけない。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

人生には運がある、と言うと、このごろの若い人は怒る。「それでは公平になりません。だから何とかして平等にすべきです」と言う。しかしそもそも個体が違う人間の要素が平等になることはあり得ないのである。平等になるということは、人間がピスケットのよう同じサイズと同じ顔になることだ。人間のDNAが一人一人違うことを考え、クローン人間を創ることは、人道上の犯罪だと言うなら、人間は一人一人違うのが当然であって、決して平等にはならなくて仕方がないのである。女性と生まれてどうして女優さんのように美人にはなれないのか。同じ女の子として育ちながら、どうしてフィギュアスケートの選手のような美しい肢体と運動神経を持ち得ないのか。そんなことを考えたしたら、私たちは、不平不満の塊になる。

私たちは、しかし一人一人が得難い素材なのである。それからどんな作品を生むか。彫刻の場合なら、或る木材や大理石の塊から、何を刻むかは彫刻家の腕に任されるが、自分という人間を創るのは、ありがたいことに私たち自身の手^{たが}に委ねられている。

かつて戦争中には、日本の若者たちは決して自分の運命を自分で決められはしなかった。徴兵制度があったから、健康体から兵隊にならなければならなかったし、そうしなければ安全な戦線を選ぶなどということもできなかった。好きな勉強をしようにも、軍需物資を生産する工場に徴用され、私のように当時十三歳の未成年の女の子でも一日十一時間の工場労働に従事した。食料も充分ではなかったから、私は皮膚の化膿が治らず、結核で倒れる人もたくさんいた。

その時代とくらべると、今は幸福な時代だ。努力次第で、自分の好きな道に進める。格差社会が次第に大きくなって、そうした希望も叶えられなくなっている、とジャーナリズムはしきりに書くが、そんなことはない。今では、無駄な時間を使わず、本を読み、自分で考え、人一倍勉強する青年には必ず道が開けている。

いい生涯を見いだすには、まず自分をよく知るからだ。自分と他人とは決して同じではない。だから、どこが違うかを過不足なく承認することからすべては始まる。簡単なようだが、それさえもできない若者が多過ぎるのはどうしてだろう。似合おうが似合わないだろうが流行の服を着(安いからという理由なら理解できないでもないが、日本に生まれて日本に育ちながら日本語さえも喋れず書けない。日本人なら、日本語ができて当然だということは、最近保証できなくなった。自分が属する民族の言葉さえ使えない人は、一国の文化もともに身につけていないという証拠だから、厳しい言葉で言えば、とうてい指導者にも「上流階級」にもなれない。それもこれもすべてはテレビやホームページやEメールやマンガやカラオケに時間を取られて、まともな勉強や読書をしなからである。

人との違いさえわかれば、次の段階が自然と見えて来る。自分の短所ではなく、長所を伸ばせばいいのだ。人と付き合うことが好きならその点を、一人でいることが好きならその性癖を、体が丈夫なら肉体労働を、生かせるような仕事を探せばいいのである。人間、自分の得意なことをするのは一番幸福だ。嫌いで不得意なことを一生の仕事にしたら、それほど大きな損害はない。それにもかかわらず、若者たちは就職する時に、あまりにも世間の流行に流されている。近年はIT関係の会社に将来性があると言われると、その仕事の実態がどんなものであるかも考えずに人気業種の就職試験を受ける。銀行が堅いとなると、銀行に行きたいと考える。そして数年経つと、IT産業の先行きも現実にはあまり明るくない、とか、銀行で金に仕えるのはいやになった、とか言う。そんな成り行きは、一人前の頭があれば、始めからわかっていたことではないか。

つまり人間は、過不足なく、自分自身であるべきなのだ。才能においても自分を伸ばし、職業においても得意の分野で働くことなのである。それが自分が自分自身の主人になる方法なのである。それを浅慮の結果、他人の価値観で人生を選ぶから、自分の心にそまない生き方をして、奴隷のように他人に使われて生きることになるのである。

幸福になる秘訣は、「あるものを自分に与えられているものを数えて喜んで生きる」ことなのだ。しかし多くの人が「ないもの(自分に与えられていないもの)を数えて不服を言う。歩くこともできない病気の人のからみたら、歩けるだけで大きな恩恵だ。口から食事できなくなった老人と比べたら、自分で大きな握り飯をばくばく食べられる人は天国の境地にいる。それなのに、人間はいつも不服なのである。

人はその数だけ、特殊な使命を持っている。誰一人として要らない人はいない。そのことをはっきり自覚し、自分に与えられた運命の範囲を受諾し、そのために働き、決して他人を羨まない暮らしをすれば、誰でも今いる場所で輝くようになる。その仕組みをわかると、人生で感謝を知ることになるだろう。感謝が幸福の源泉だ。不平ばかり言っている人は、みすみ自分の周囲を黒雲で閉ざし決して陽射しを受け入れようとしない人である。感謝があると、自分の受けている幸福の一部を、他人に贈ろうとする。おもしろいからくりだが「与える」と「得る」のである。試してみてほしい。

會野綾子 生きる姿勢(河出書房新社)

問一 この文章に二〇字以内でタイトルをつけなさい。

問二 「与える」と「得る」のからくりを二〇〇字以内で説明しなさい。

問三 医師を一生の仕事にするにはどのような人間であるべきかを六〇〇字以内で述べなさい。